日韓両言語の人物呼称の対照研究

－韓国ドラマのシナリオ分析を中心に－

韓　　秀　蘭

1．はじめに

日本語と韓国語の対照研究は様々な側面で行われてきた。しかし、こういう二カ国語の比較において、人物呼称に関する対照研究は少ない状況である。話し手と聞き手、そして第三者との人間関係を表わす手段の一つとして、人物呼称はコミュニケーション上、重要な役割を果たしている。本稿は、ドラマのシナリオを資料として、韓国の家族間会話における自称詞[1]の使用状況をまとめながら、日本語との比較を行うことを目標とする。

2．資料と研究方法

資料は韓国のKBS1TVで、2001年10月29日から2002年６月28日まで放送されたホームドラマ「사랑은 이런거야」(sarangeun ireongeoya)[2]全172話のうち、35回分のシナリオを資料として用いる。本稿で扱う家族間会話は、夫婦間、親子間、兄弟間、祖父母と孫、おじおばと甥姪の他に、婚姻による義理の親と嫁・婿、義兄義弟と義姉義妹同士の会話も含める。なお、本稿は使用状況を中心にまとめるものとし、使用度数は問題としない。

自称詞を一人称代名詞、固有名詞、親族名称に分ける。親族名称を直接用法と間接用法[3]に区分して、更にそれぞれ幼児語・ニュートラルな表現・敬称・卑語に区分する。

3．考察結果

3．1　一人称代名詞「na　わたし」と「jeo　わたくし」の使用

「na」	親、兄・姉、祖父母、おじ・おば、舅・姑、義兄(内)→義弟(外)[4]、義姉(外)→義妹(外)、義兄(外)→義妹(内)、義姉(外)→義妹(内)、義妹(内)→義姉(外)
「na　jeo」	夫、妻、子供、弟・妹、孫、甥姪、義姉(外)→義弟(内)、義兄(内)→義妹(外)、義妹(内)→義兄(外)、義弟(外)→義姉(外)、義弟(内)→義姉(外)
「jeo」	婿・嫁、義姉(外)→義弟(外)、義妹(外)→義姉(外)、義妹(外)→義兄(内)、義弟(外)→義兄(内)

「na」を使うのは、基本的に目下に対してである。韓国語では、嫁も婿も自分の子供と同じく待遇するのが普通である。目上に対して使った例として義妹(内)→義姉(外)があるが、義理の関係は後ほどまとめて述べる。

夫婦間の会話では、「na　jeo」を併用している。本稿の資料では、夫が「jeo」を使うのは特別な場合だけであって、話し手は怒っている妻に対して、慰めるつもりで、わざと優しい言葉で改まった表現をしている。妻は夫に対して、ほとんど「na　わたし」が使われるが、「jeo　わたくし」も使う可能性がある。

子供も親に対して、「na　jeo」を併用している。一般的に娘は息子に比べ改まった表現より、親しさの表現を好む傾向が見られる。成人の息子は一般的に、「jeo」を使い、娘は40代になっても改まった場面以外は「na」を多く使っている。しかし、これは話し手の性格や、家柄とも関わるもので、本資料で末っ子の三男は27才になっても、甘えた気持ちから「na」を使っていて、また、別の26才の娘は必ず「jeo」を使っている。

兄・姉に対する一人称代名詞は「na」でよいと考えられる。本資料で見られる「jeo」の使用は特別な場面での使い方で、例外と言える。

祖父母とおじおばに対しても、「jeo」と「na」が使われている。親、兄・姉、祖父母、おじおばのような元々尊敬すべき相手に対して「na」と「jeo」を併用しているが、これは、現代社会において、親子の関係、兄弟姉妹の関係などだい

ぶ親しくなっている証明でもある。最近は、祖父母と孫の関係も昔に比べ、もっと身近で、親しくなっている。儒教倫理が根強い韓国社会において、厳格な家族内の人間関係も現在では、人間関係の横の親密性が大事にされている。話し手の性別を含めた諸ファクターによって言葉遣いの違いはあるものの、目上の人に対して改まった表現を使うより、もっと親しみを感じさせる言葉遣いをしているのは現代韓国語の特徴と言える。

義弟・義妹に対する人称代名詞の特徴

話し手と聞き手が同じ性別の場合は、「na」の使用が多い。

性別が異なる場合は、大体「na」と「jeo」を併用しているが、女性の話し手は「jeo」を使う傾向がある。

韓国社会において、男性は女性よりもっと丁寧な言葉遣いをされていると指摘されている。男性は会社など「縦社会」の人間で、家族間の会話においても改まった丁寧な表現を好み、女性は「人間関係の横の親密性」を大事にする。

しかし、義理の兄弟・姉妹の会話に限っては、義姉が義兄より、義理の目下(異性)に対してもっと丁寧な言葉遣いをしている。これは女性の話し手が義弟に対してある程度距離感を持った言葉遣いをしていることが言えるだろう。

義兄・義姉に対する人称代名詞の特徴

義兄・義姉に対して、必ずしも丁寧な言葉遣いをしていないことが分かる。特に話し手と聞き手が同じく女性の場合は、親しい表現をよくしている。しかし、同じ女性でも「義妹(外)」から「義姉(外)」に対しては必ず丁寧語が使われる。考察で分かったように、相嫁の間では必ずと言えるほど目上は目下に「na」を使い、目下は目上に「jeo」を使っている。同じ女性なら親しい言葉遣いを好む傾向があるが、同じく「ソトから来た女同士」では適応しないようである。

義妹から義兄に対する言葉遣いは、「義妹(外)」から「義兄(内)」なら丁寧に「jeo」を、「義妹（内)」から「義兄(外)」なら「na」と「jeo」を併用している。「義妹(内)」から「義兄(外)」に対して話し手によっては、「jeo」だけ使う場合もある。本研究での45才の義妹は義兄に対して丁寧語を使っているのに対して、18才の義妹は義兄に対して「na」を好んで使う。女性は異性との会話で距離を置く傾向があると言われているが、現代の若者の言葉遣いをみると親しい言葉遣い

をよくしていることが分かる。

義弟は、義兄・義姉に対して改まった表現を好んで使うが、話し手によっては義姉に対して「na」を使う用例もあった。

3．2固有名詞

日本語の場合、特に女性によく見られる傾向であるが、自分のことを「名前」でよく表す。この用法は子供に特徴的に見られる甘えを示す使い方で、それが女性にも同様な心理を表現する手段として用いられている。

先行研究で明らかになったが、韓国では男性が女性よりもっと丁寧な言葉遣いをしていて、日本では女性が男性よりもっと丁寧な言葉遣いをされている。本研究の考察でも分かるように、韓国の女性は人間関係の親密性を大事に思って、親しく甘えた言葉遣いを好んでいる。

林(2002)は、自称詞としての名前の使用について、韓国人の場合男性は父を除いて母、兄・姉、弟・妹に対する場面で、女性は弟や妹を除いて父・母、兄・姉に対する場面で「名前」を使用していることを確認している。その使用率は、日本人と同様、男性より女性の方が多く用いる傾向を見せていると指摘している。

しかし、本資料の考察範囲内では、「名前」の使用に関して、その用例が少ない。考察範囲で見られる用例は、夫が妻に、兄が弟に、弟が兄にと1例ずつのみである。わざと自己紹介をしたり、改まった言葉遣いをしているなど3例とも特別な使い方をしていて、また、女性による「名前」の使用は一度もない。アンケートにおける使用とドラマにおける使用に相違が見られるが、「名前」の自称詞に関してはこれからも考察を続ける必要があると思われる。

3．3親族名称

3．3．1親族名称の直接用法

日本語も韓国語も自分を表す場合、一人称代名詞・固有名詞の他に、たくさんの親族名称を用いている。本研究で見られる直接用法の使用状況に関しては、資料1を参照されたい。

鈴木(1973)では、家族内の会話において父母、祖父母、兄姉、「おじ」「おば」などの概念を含む言葉は自称詞になりえるが、子、孫、弟、息子、娘、そして甥、姪などの概念を含む言葉は日本語では自称詞になり得ない。特定の家族内で何か

の理由からこの規則を破っていることもある(年齢の近い姉妹が、相互に名前で呼び合うケースもある)と指摘している。鈴木氏は、義理の関係については説明していないが、基本的に目下の者は目上の者に対して目上からの対称詞を自称詞として使えないということである。従って姑と嫁の会話で、嫁は姑に対して姑からの対称詞「嫁関連の言葉」を自称詞として使えない。

鈴木(1973)では、日本語において、ある特定の親族集団(家族)に属する目下の目上に対する親族用語による呼びかけと、その目上が自称詞として用いる親族用語は一致する。つまり、自分の子供から「パパ」と呼ばれる父親は、子供に対して自分を「パパ」と言い、「お父さん」などとは言わないと指摘している。

韓国語に対する考察を行い、日本語とは異なる部分が多いことが分かった。例えば、韓国語では目上の者に対して，目下の者は目上からの対称詞を自称詞として使えることを確認した。また、確かに韓国語においても目上の人は、目下からの対称詞(幼児語[5]とニュートラルな表現)をそのまま自称詞として使っている。しかし、韓国語では目下からの対称詞を卑語の自称詞に形を変えて[6]使う場合がある。上記の韓国語の二つの特徴を中心にまとめたいと思う。

①　目上の聞き手からの対称詞を自称詞として使う場合

本資料で考察できたのは、妻→夫[7]、子供→親、弟・妹→兄・姉[8]、婿・嫁→舅・姑、義弟・義妹→義兄・義姉への会話において、目上の聞き手からの対称詞を自称詞として使っている。詳しい使用状況に関しては資料１を参照してもらいたい。

②　目下の聞き手からの対称詞を卑語の自称詞に形を変える場合

話　し　手	親	兄・姉	祖父母	舅・姑

聞き手からの対称詞によっては、卑語の形のない対称詞もある。卑語の自称詞は目下に対して多く使われ、聞き手に対する謙遜・聞き手を配慮した使い方ではなく、現代韓国語では話し手自身によるある程度決まった言葉遣いのように使われていると考えられる。

父、母の卑語「aebi」と「emi」は大変下卑な言い方で、昔でもだいたい厳格な家柄の祖父・祖母が、他人の前ですでに家の家長になった自分の子供を指しながら、「わたしがこの子の『aebi』です」のように使われ、それ以外の人はめっ

たに使わない語である(森下・池1989)。本資料の考察範囲で見られるものとして、40代以上の親は、子供に対して卑語の自称詞を使っている。特に娘より息子に対して多く使われている。30代の親は子供がまだ10才程度で、幼児語で呼ばれていて、自称詞も幼児語が使われる。つまり、卑語は、ある程度年齢の高い人が成人の聞き手に対して使っている。舅・姑の卑語の自称詞は、父母の自称詞に「義理」の「si」を接頭語として、使われている。

注釈8の部分で触れたように、韓国語は「兄・姉」に対して、弟と妹はそれぞれ違う呼称を使う。「兄」は妹に対して妹からの対称詞を卑語の自称詞として使えるが、弟には卑語が使えない。「姉」は、弟と妹の両方に卑語の自称詞が使えない。つまり、妹から兄へに対称詞は卑語の形があるが、弟が兄に、弟・妹が姉に対する対称詞には卑語の形が存在しないのである。本研究では55歳の兄が40代前半の妹に対して卑語の自称詞を使っている。

祖父母は孫に対して、聞き手の孫の年齢によっては卑語が使われていない。本資料では7歳の孫に対してはニュートラルな表現を、18歳以上の孫に対しては卑語の自称詞を使っている。

義兄義姉義弟義妹の会話においては、卑語の自称詞が使われていない。

ニュートラルな表現と卑語の使い分けは話し手の諸ファクターはもちろん、聞き手の年齢にも関わる。幼児語・ニュートラル・卑語の使用は、話し手と聞き手の年齢を第一条件としてまた他のファクターに関係しているが、その規則をまとめると、次のようになると思われる。

聞き手からの対称詞	話し手の自称詞
幼児語	幼児語
ニュートラルな表現・尊敬語	ニュートラルな表現・卑語

3．3．2 親族名称の間接用法

話し手は聞き手に対して、聞き手以外の色々な立場からの親族名称を自称詞として使っている。本研究で見られる間接用法の使用状況に関しては、資料2を参照されたい。親族名称の間接用法に関しては先行研究が見当たらず、本資料で見られる使用例に基づいてまとめると次のようになる。

夫→妻	子供、嫁、義妹からの対称詞
妻→夫	子供、嫁、義妹、甥姪からの対称詞
親→子供	嫁からの対称詞
子供→親	子供からの対称詞
姉←→妹	母からの対称詞
おば→姪	孫からの対称詞
嫁→舅・姑	夫からの対称詞
婿→舅・姑	妻からの対称詞
義兄(外)→義妹(内)	義理の母からの対称詞
義妹(内)→義姉(外)	姪、兄からの対称詞
義兄(内)→義妹(外)	子供、弟からの対称詞

以上のように、話し手は、聞き手以外からの対称詞を自称詞として使っているが、聞き手以外の人は当然聞き手とも関わりのある人である。

３．３．１の「親族名称の直接用法」の部分で述べたように家族間の会話において幼児語の形が存在するのは、子供からの対称詞のみで、卑語の形が存在するのは親、妹、孫、嫁・婿からの対称詞である。つまり話し手が、聞き手以外のそういう立場からの対称詞を自称詞として使うときは幼児語または卑語使用の可能性がある。

幼児語と卑語が使われていることは、当然ニュートラルな表現も可能である。前にも述べたようにここでの卑語の使用も、聞き手に対する謙遜・聞き手を配慮した使い方ではなく、話し手自身のある程度決まった言葉遣いとして使われていると考えられる。

４．まとめ

本研究では、韓国のホームドラマのシナリオを用いて、家族間会話における自称詞の使用状況をまとめた。自称詞は一人称代名詞、固有名詞、親族名称に区分して、親族名称を直接用法と間接用法に分けた。管見では今までの対照研究に、

家族間会話における義理の関係と卑語の使用状況をを考察対象にしているものは見当たらず、本研究により新しい考察ができたと思う。

全般的に目上の人にもニュートラルな表現が多く使われているが、これは現代の待遇表現の特徴であり、対人関係が親しみやすい方向へ転換しつつあることを表わしている。韓国語では一般的に男性のほうが、改まった表現を好み、女性のほうは親しい表現を好む。しかし、義理の兄・姉・弟・妹同士の会話においては、義姉が義兄より義理の目下(異性)に対して丁寧な言葉遣いをしていることが分かった。これは、女性の話し手が義弟に対してある程度距離感を持った言葉遣いをしていることが言える。親族同士の呼び方は日本語の方が韓国語よりシンプルである。

今後、日本語の資料を充実させながら、義理の関係の会話、親族名称の卑語の使用などについて更に詳しく検討していきたいと思う。

注釈

1　話し手が自分自身に言及することばのすべてを総括する概念である。いわゆる一人称代名詞は自称詞の極一部となる。

2　韓国語のローマ字表記法を使用する。表記の基本原則第1項は国語(韓国語)のローマ字表記は、国語(韓国語)の標準発音法に従って綴ること、第2項はローマ字以外の符号はできるだけ使用しないことである。(韓国文化観光部告示第2000-8号 2000年7月7日)

3　親族名称の直接用法と間接用法の用語は筆者によるものである。直接用法は、聞き手からの親族名称を話し手が自称詞として使う場合である。例えば、夫婦の会話で、夫が妻に対して妻からの対称詞「夫」「主人」などを自称詞として使うことである。間接用法は、聞き手以外からの親族名称を話し手が自称詞として使う場合を表わす。例えば、夫婦の会話で、夫が妻に対して妻以外からの対称詞「パパ」「婿」などを自称詞として使うことである。

4　矢印は「話し手から聞き手」を表わす。括弧内の「内・外」は、筆者によるもので、元々その家の者とよそからきた者を区分するためのものである。

5　幼児語の自称詞は、聞き手からの対称詞に幼児語がある場合に使われる。家族間会話では、子供から親への対称詞のみ幼児語がある。

6　ニュートラルな表現から形を変える時、一般的に卑語の形に変えている。本資料の考

察範囲で、聞き手からのニュートラルな表現を、敬称に変えて自称詞として使う例がある。それは、夫の自称詞「seobangnim 旦那様」の１例である。考察範囲内で、妻からの対称詞として１例もなく、現代韓国語ではほとんど使われていない夫への敬称の対称詞である。本資料では、27才の夫が自分をアピールする気持ちで、１回だけ使われている。

7　夫婦の間では平等な言葉遣いが多く見られ、目上目下の区分が厳しく要求されないが、本研究では「夫」を目上、「妻」を目下として扱う。

8　兄・姉への呼称－対称詞は日本語と異なるが、簡単に述べると、韓国語では、話し手の性別によって兄・姉に対する呼び方が異なる。兄に対して弟は「hyeong　兄」、敬称は「hyeongnim　兄様」を、妹は「oppa　兄」、敬称は「orabeonim　　兄様」を使う。姉に対して弟は「nuna　姉」、敬称「nunim　姉様」を、妹は元々敬称はなく、「eonni 姉」を使う。、妹からの「oppa」には卑語の形があって、「eonni」には卑語の形がない。韓国語と日本語で、親族呼称が大きく異なるのは、他に「おじ・おば」に対する呼称、義兄義姉義弟義妹の呼称などがある。対称詞に関しては機会を改めて述べたいと思う。

参考・引用文献

鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』 岩波新書

松尾勇（1977）「朝鮮語の対称詞について」（『外国語教育第４号』 天理大学外国語教育センター）

金榮順（1986）「日韓両国語の自称詞・対称詞の対照的考察」（『国語学研究と資料』）論説資料23 - １による

森下喜一・池景来（1989）『日本語と韓国語の敬語』　　白帝社

徐正洙（1989）　『尊待法の研究』　翰信文化社　韓国

中田敏夫(1996)「親族呼称の研究」（『論集言葉と教育』 和泉書院）

林炫情（2002）「自称詞使用に関する日韓対照研究－アンケート調査に基づいて－」（『西日本言語研究会31』）

鄭恵先（2002）「日本語と韓国語における人称詞の使用実態」（『計量国語学』23巻７号）

資料1　親族名称の直接用法の使用状況

夫→妻	nampyeon（夫　ニュートラル） seobangnim（夫　敬称）
妻→夫	manura（妻　ニュートラル） anae（妻　ニュートラル）
親→子供	eomma（母　幼児語） appa（父　幼児語） eomeoni（母　ニュートラル） emi（母　卑語） aebi（父　卑語）
子供→親	ttal-jasik（娘　ニュートラル） adeul（息子　ニュートラル）
兄姉→弟妹	oraebi（兄　卑語）
弟妹→兄姉	dongsaeng（妹・弟　ニュートラル）
祖父母→孫	halmeoni（祖母　ニュートラル） halmi（祖母　卑語）
おじおば→甥姪	imobu（おじ　ニュートラル） gomobu（おじ　ニュートラル）
義理の親→嫁・婿	si-eomeoni（姑　ニュートラル） si-emi（姑　卑語）
婿・嫁→義理の親	sawi（婿　ニュートラル） myeoneuri（嫁　ニュートラル）
義兄（外）→義妹（内）	hyeongbu（義兄　ニュートラル）
義妹（内）→義姉（外）	sinui（義妹　ニュートラル）
義弟（外）→義兄（内）	maebu（義弟　ニュートラル）
義弟（外）→義姉（外）	sinui-nampyeon（小姑の夫　ニュートラル）

資料2　親族名称の間接用法の使用状況

夫→妻	appa（父　幼児語） abeoji（父　ニュートラル） si-ajubeoni（義兄　ニュートラル） si-aebi（舅　卑語）
妻→夫	jageun-eomma（叔母　幼児語） sonwi-dongseo（義姉　ニュートラル） emi（母　卑語） si-emi（姑　卑語）
親→子供	si-emi（姑　卑語）
子供→親	Chinjeong-eomma（実家の母　幼児語）
兄姉→弟妹	mopsseul-ttal（悪い娘　ニュートラル）
弟妹→兄姉	jageun- ttal（下の娘　ニュートラル）
おじおば→甥姪	halmeoni（祖母　ニュートラル）
嫁・婿→義理の親	nampyeon（夫　ニュートラル） anae（妻　ニュートラル）
義兄（外）→義妹（内）	sawi（婿　ニュートラル）

義妹（内）→義姉（外）	gomo（おば　ニュートラル） dongsaeng（妹 ニュートラル）
義兄（内）→義妹（外）	子供の名前+appa（父　幼児語） hyeong（兄　ニュートラル）

（かんしゅうらん　日本語学）